

大岡越後傳吉

第百四十二期 桃川 如燕 演 浪上 義三郎 演



さて前回は上りたる通り河村... (Text continues with the plot of the play)

いって前々、いって前々、いって前々... (Continuation of the play's text)

花柳病患者諸君 是非御一

讀を乞ふ

●薬味の改善は吾社の生命

日に月を刻一刻と、駭々乎として止まる學理の進歩に後れじもの、吾が社試験部に於ては、常に、世界最新の學說を漁り、貴重なる機軸を拂ひて、研究實驗を重ね、絶えず藥劑の改良に努めつゝあり。

●世界に於ける吾社の位置

吾が商會は、壹百有餘の支分店を有し、常に亡國病たる花柳病の撲滅を絶叫し、嘗ては機關新聞を發行して、柳暗花明の巷に浮かれて前後を顧みざる青年諸君に、椽大の筆を揮ひて警告を與へ、以て斯病の豫防を企圖すると同時に、卓越する藥劑を發行して、年々歳々、多數の花柳病患者を救済しつゝあるは、讀者諸君の熟知せらるゝ處なり。

單なる一個の花柳病専門藥房として、壹百數十の支分店を有して以て、亡國病の撲滅豫防に腐心しつゝあるは、世界廣しと雖も、現今の處、吾が商會以外には絶対に無し、敢て手前味噌に非ず、眞に世界唯一無二の花柳病専門藥房たり。獨り吾が社が天下に斯の名實を贏ち得しは、一に卓越せる藥劑の實効に倚るに云へ、亦諸君が御同情御聲援の賜なり。

社員一同茲に謹んで感謝の意を表す。

●注意

古來誇大なる事の比喩に藥の廣告の如しとの言あり、之れ藥界裏面の一端を牽てる實際なり、嘗て世界に誇るべき花柳病藥として各地の新聞紙に廣告せられつゝある某商會製藥の効力一件につき吾がドラッグ商會と店との間に端無く一大紛争起り大阪控訴院に於て京都醫科大學病院、九州醫科大學病院、田村醫學博士を始め九州醫科大學教授醫學博士旭憲先生等、各大家の著書により辯論せられたる結果公明正大なる判決ありて吾がドラッグ商會の全勝に歸したる事は京阪數多の藥業新聞を始め全國各地の新聞紙上に報せられたれば讀者諸君は先刻御承知の事ならん、見よ藥界の廣告の如き稀には正直なるもの、無きにはあらざれども中には大家の氏名を盗用して學者より訴へらるゝものあり或は無稽の妄説を掲げて罰せらるゝものあり斯かる極端なる例は措て問はずもかな彼の金力によりて博士大家の名を利用するが如き如何はしき千百の證明等夫れ幾何の價值ある廣告には初號活字の表題を以て學理上不治の難症を公認せられある疾病をも必ず全治すと吹聴す之れ吉來誇大の比喩に藥の廣告を以てせらるゝ所謂なり。

本舖 大阪(花柳病専門藥房) 合資會社 ドラッグ商會

京城南大門外停車場通り

ばいん病専門藥房

電話二五六七番 振替京城四六七番 支店黄金町三 龍山漢江通小學校前



特製參圓 普通貳圓 小包送費 拾貳錢



特製貳圓 普通圓 小包送費 拾貳錢

羅馬法王の平和文書

大佛正・ボン・ス・氏は平和に關する羅馬法王の文書

大佛正・ボン・ス・氏は、昨日、羅馬法王の平和文書を、大佛正・ボン・ス・氏の手に傳へられた。羅馬法王の平和文書は、昨日、羅馬法王の平和文書を、大佛正・ボン・ス・氏の手に傳へられた。羅馬法王の平和文書は、昨日、羅馬法王の平和文書を、大佛正・ボン・ス・氏の手に傳へられた。

段將軍の著任

新任段將軍の著任は四日奉天に赴任する

新任段將軍の著任は四日奉天に赴任する。新任段將軍の著任は四日奉天に赴任する。新任段將軍の著任は四日奉天に赴任する。新任段將軍の著任は四日奉天に赴任する。

女王御歸嫁

關東宮廷の第一夫人、女王御歸嫁

關東宮廷の第一夫人、女王御歸嫁。關東宮廷の第一夫人、女王御歸嫁。關東宮廷の第一夫人、女王御歸嫁。關東宮廷の第一夫人、女王御歸嫁。

總裁更迭

三任總裁、三任總裁、三任總裁

三任總裁、三任總裁、三任總裁。三任總裁、三任總裁、三任總裁。三任總裁、三任總裁、三任總裁。三任總裁、三任總裁、三任總裁。

慧海師の歸國

明治三十七年以來、二回の歸國

明治三十七年以來、二回の歸國。明治三十七年以來、二回の歸國。明治三十七年以來、二回の歸國。明治三十七年以來、二回の歸國。

井上侯の光榮

天國内閣書記官、井上侯の光榮

天國内閣書記官、井上侯の光榮。天國内閣書記官、井上侯の光榮。天國内閣書記官、井上侯の光榮。天國内閣書記官、井上侯の光榮。

金物大會々々

原田金物、金物大會々々

原田金物、金物大會々々。原田金物、金物大會々々。原田金物、金物大會々々。原田金物、金物大會々々。

各道と審判官

各道と審判官、各道と審判官

各道と審判官、各道と審判官。各道と審判官、各道と審判官。各道と審判官、各道と審判官。各道と審判官、各道と審判官。

博士車中談

博士車中談、博士車中談

博士車中談、博士車中談。博士車中談、博士車中談。博士車中談、博士車中談。博士車中談、博士車中談。

始政五朝鮮物産共進會

始政五朝鮮物産共進會。始政五朝鮮物産共進會。始政五朝鮮物産共進會。始政五朝鮮物産共進會。

噴水工事竣成

噴水工事竣成。噴水工事竣成。噴水工事竣成。噴水工事竣成。

鐵道局の協議

鐵道局の協議。鐵道局の協議。鐵道局の協議。鐵道局の協議。

酒商大會開會

酒商大會開會。酒商大會開會。酒商大會開會。酒商大會開會。

天勝の興行料

天勝の興行料。天勝の興行料。天勝の興行料。天勝の興行料。

滯京雜感

滯京雜感。滯京雜感。滯京雜感。滯京雜感。

政治と民心

政治と民心。政治と民心。政治と民心。政治と民心。

八月下旬氣象

八月下旬氣象。八月下旬氣象。八月下旬氣象。八月下旬氣象。

七月通信收入

七月通信收入。七月通信收入。七月通信收入。七月通信收入。

實業教育の革新

實業教育の革新。實業教育の革新。實業教育の革新。實業教育の革新。

農村的改良

農村的改良。農村的改良。農村的改良。農村的改良。

研究會の組織

研究會の組織。研究會の組織。研究會の組織。研究會の組織。

實業教育の革新

實業教育の革新。實業教育の革新。實業教育の革新。實業教育の革新。

實業教育の革新

實業教育の革新。實業教育の革新。實業教育の革新。實業教育の革新。

柔道部御用達

改良柔道衣

改良柔道衣。改良柔道衣。改良柔道衣。改良柔道衣。

文藝俱樂部

文藝俱樂部。文藝俱樂部。文藝俱樂部。文藝俱樂部。

電機學校

電機學校。電機學校。電機學校。電機學校。

大坂陶器堂

大坂陶器堂。大坂陶器堂。大坂陶器堂。大坂陶器堂。

琵琶歌譜

琵琶歌譜。琵琶歌譜。琵琶歌譜。琵琶歌譜。

築前琵琶歌譜

築前琵琶歌譜。築前琵琶歌譜。築前琵琶歌譜。築前琵琶歌譜。

房書韓日

房書韓日。房書韓日。房書韓日。房書韓日。

雨中の出迎者一千有餘名
興津の蕭やかなる永訣式

井上侯の遺骸は二日夜深更假棺柩を經り三日朝還族近親等の蕭々か
訃拜ありて永訣式を了り、靈柩は午後二時五分興津發
別列車に移され東京に向ひたり、靈柩の傍には伊藤
委員長、前衆議委員長、藤田四郎氏其他五六名付き添ひ同列車には近
衛侯の照顧を受けし者等百餘名同乗し、假柩の傍には安河内縣知事を
興津町長、各學校教職員、在郷軍人及び興津小
校生徒四百餘名整列し肅然として靈柩車を送
りて特別列車は午後七時三十五分東京驛に到着、靈柩は直ちにニレ

學術的に觀察す。五號活字は明
百尺の底に下る。宛然龍宮の光景

往復前後六十日、その間の三日近くを、日本海の寒波が岸壁に自注を打ちつける北郷の沿岸に沿うて北郷津村から南津湊までの海底を探検して過日歸任した郷督府水産課の松野技手は、潮風に練へられた黒い頑強な面に微笑を湛へつゝ語る、所は共進會場助成院の總理に係員の人が「漁具の陳列に對しの一閃、貴船の作業を寫した繪畫の前」。「魚底の棲息の模様や海藻繁茂の實際を研究するには、潜水夫の口から耳に聞いた次では如何しても十分に徹底することが出来るので私も潜水服に身を固め水に潜り込で出来る大學術的に

▲海底の世界を觀察して見た先づ船夫一名、ポンプ押し四名潜水夫一名、ホースや潜水夫を船に繋ぐ太い繩を甲板より一名都合七名を搭乗した大船が用意出来る、目的地に向つて船を漕ぎ出す天候は好調の日を選ぶのは勿論波の成る可く穏かな、水が濁らぬ場所に限られる、潜水夫が終結上事をして居る所なら、凡そ深さも海底の様子も知れて居るから別に調査もせぬが初めて海の中ならは鎧の重りのためた糸で深さを試験し、又海底が泥濘であるか、砂地であるか、岩石であるのかも調べる、潜水者は水壓に對する抵抗力を助ける爲めスコッチのシヤツズボン下の上にメリヤスのシヤツズボン下を二枚位重ね着下はスコッチのもの三足位を穿いてその上に足から手についた四足つきの袋の様に九層水服を着る、潜水服はゴムの裏表にツックを合せた頑大なもの、手首の所はゴムで固く水が入らぬ

様に纏つてゐて、手先は自由になが出来るやうに纏ひ成つてゐるには

▲兎と稱する重い鉛が船に繋ぎあつてあるので全體重量が十三貫位ある、だから陸上で殆んど身動きの自由がきかぬ程でが一度船を離れて海中に入ると程身動に成る、繩につかまつていふ様なことは殆んどなく利も此の服裝で行きなり水に飛び込むでました、潜水夫が海中に下つたつてホースは適度にゆるめられ氣を遮られる、水に入るときは大身動を輕くする爲に足の頭には空氣の外は外に排出する、船に面と横に首を振つた時の爲めにの窓がある、私達の潜水夫は十までの保險つきで、廿三尋位は十までが出来たのであつた十一二を限度としました、一尋が六尺のは淺い、一尺短くつて五尺位から百尺の海底に下つて仕事をわけて十尋即ち五十尺位の、左に左、苦痛もないが二十尋と水の

▲壓力も随分強く時血液の循環を止められ覺醒を起し命を失ふ様なことがある、尤もは體質にもよるのであるが海底に達するとホースを捲つてゐるをする、平常空中に棲息してゐるが水の世界に入つて、水中の國の生活を體驗と見るのだから、敢て

朝鮮土産五百餘箱
驛附近の惡徳商人
山崎茶屋にては治政五年記念生

が澄んで、へ屠れば隨分遠くの岩や
島の根元まで見ることが出来る。私
は試験する暇がなかつたのを残念に
思つて居るが、確かに五號活字なら
▲新聞を讀むことも 立派に
出来る、水中で作業してゐる時も、
水服の中に空氣が溜るのを浮き上つて
行くので、ポンプを何回押す間に何
度といふ風に時を測つて兜の蓋を頭
に押しつける。朝鮮土產五百餘箱
關附近の惡徳商人
釜山警察署にては始政五年記念共
會、觀覽來者に對する待遇其他
關して陳れて旅館料理屋菓子屋
朝鮮土產販賣者等直接觀覽者に關
ある諸營業者に對し、夫々販賣す
意をなしたるが、鄙示のみにては、完
に不正商人を取締る事能はざるを
期三日來を待たず、車馬易

撲られた恨み

島根縣津村生の河本照次（こはもと しょうじ）は、
地方、車、帳場の職人なる所同じく、
邸屋、城町、一丁組、人、町、生、帳場の
子、島根縣、島子、代町、町、生、の藤野
二郎（ふじの じろう）と營業上の事より八月二
九日論を打つ初め、照次は貞二郎
を攪れたるより之を袖に持ち、同
午前十一時半頃、一先づ歸宅して電
を以て貞二郎を同地七星町なる大
停車場北側路上に誘ひ出し、自分も
所に赴き、出資に物を言はす、摺
所に、手、物、取、

一方大邱署にては非常線を張り
 害者の行衛を搜索中同日午後二
 頃同署に到着し出でたるより目

同署に於て嚴重取調中なりと
●鍾路署の不良少年
鍾路警察署にては三日管内居住の鮮人子弟中不良少年にて平素小泥を働き居れるもの及び其保護者並に關係學校教員を同署に召集し父子兄弟會ひの上にて校長より等々不良少年に對し嚴重なる訓諭をし尙將來を期し學校及び家庭と連を保ちて不正行爲の矯正をなすべし説諭して將來を勵戒し一應引取りめたりと

●乞食の金を捲上ぐ
京御水洞宮三番地金順元妻李姓女は先月十二日住所不定の乞食金月二が一同調子正働方に乞食に來りる際同家に在て食物を給せざりしり李姓女が自宅より誤分の殘飯を

リガ市に於ける獨
に於ける金順元妻李姓女は先月十二日住所不定の乞食金月二が一同調子正働方に乞食に來りる際同家に在て食物を給せざりしり李姓女が自宅より誤分の殘飯を

□彼得大帝の銅像を
リガ市に於ける獨
に於ける金順元妻李姓女は先月十二日住所不定の乞食金月二が一同調子正働方に乞食に來りる際同家に在て食物を給せざりしり李姓女が自宅より誤分の殘飯を

七月二十八日(新曆一月十日)の前には、米國駐民の都府都に入込み、第一般の貧民服たかに盛裝した、車馬で都府城にもなく富麗一般の物物を取居餘前比し二割至四割の高値を賣買し、屋敷を出

企業を有する不安を抱く者を敢てこの地方に招き集める者は、是等船舶運送業者は、大抵大なり

同女に於て悉く飲食代に消費し
より乞食は大に同人を恨み貸金

同女に於て悉く飲食代に消費し
より食は大に同人を恨み貧金
三十錢は取戻し得たるも李姓女
義したる分は支拂ひなきより同
より其の筋へ右の説諭聊ひを差
たりと

●本町署の車體檢査

本町署にては三日管内の人力車
人力車體を同署に召集し車體の

十日午後五時頃より翌朝午前六
迄に何者にか窃取されたりと

[illegible]

行二四半の構造なるも此際主
みになれば希望者の望に應ず

二四年の指定なるも此國
みになれば希望者の望に應ず

共進會記念給葉書

東京府立第一商業學校にて開成中な共進會
普は總裁五員校にして日に出向會、自
て東洋兩海關副裁に於て製造物の處
出来一部販賣するたるが就て之を
松一親として一枚は中央、密着風情
を描出して左方に山形政務廳を

芝居遊藝

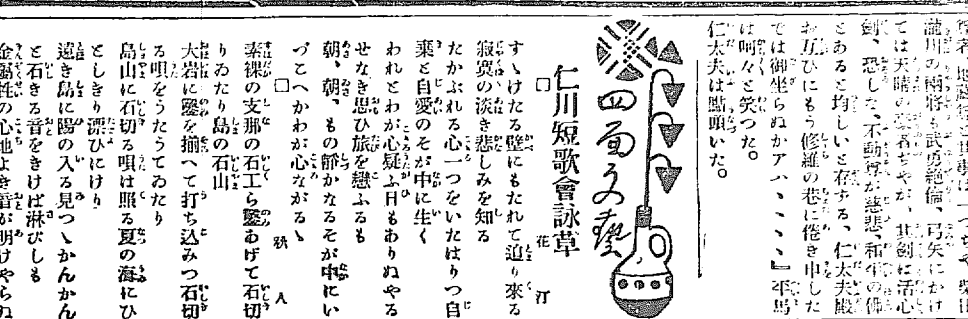
[illegible][illegible]

に應じ及、但て、それを色にも出さ

殿に言上
、
、
、
ひろなる
格と来て見やしやれど

走馬は何處へ云つて。
 「我等はまた、紫川殿や瀬川殿は疑
 ひ申さぬ。我等は棧は前刻も申した
 地蔵ぢやが、御身が主の瀬川殿や、
 まつた紫川佐久間殿は不動尊やと
 存じ申して……」
 「ナニ、不動尊とナ」
 「されば不動、不動尊はあのな法
 まじい船のして、手には劍の持たし
 ゐるが由來これも慈悲の佛、和平の
 鮮丹夫がする欺方なれば悲しけれ
 波止塢の夜の日本語の唄
 われひごりより破されて海の砂じ
 つと凝視する夕陽歸し
 海上の、悲し悼ましこの戀の果つ
 べきはてを告ぐれの見つれば
 風にまじり風に吹かれてくる船の
 内海に入れば波止塢さわぐも
 かともく起きて日昇る海見るは

大雲 居



る驛の夕べの初秋の雨
改札の鉄の音の身に泌めり夕へ雨

仁川短歌會詠草
すけけたる壁にもたれて迫り来る
寂寞の涙き悲しみを 知る
たかぶれる心一つをいたはつて白
葉と自愛のそが中に生く
われとわが心疑ふ月もありねやる
仁川時五十四番 仁川短歌會
新刊と致す 此詠歌集の本は（福
▲少年九月號）初獲てを初めとして少年期
の思慕の歌、人物の歌、動物の歌、風景の
歌の四篇、五篇の歌、七篇の歌、八篇の歌、
北條の歌の装八四回、部々上、下、上、下、
（米谷市市、米谷市市、米谷市市、米谷市市、
五）
▲市町村雜誌、二百六十一號、東京芝區

朝、もの節かなるそが中にい
づこへかわが心ながる。 執
率裸の支那の石工に鑿るげて石切
りゐたり島の石山
大岩に鑿を掘へて打ち込みつ石切
る唄をうたうてゐたり
島山に石切る唄は照る夏の海にひ
としきり漂ひにけり
遠き島に歸の入る見つゝかかん
と石ける音をはきながしめ
金銀生(の)心もよき音(の)聞やう口
眼をして聞うた尤も小生は其の所
書狂) ▲一人一枚に限ります(係)▲
廿三日夜本町の某書店に行き入用の
書籍を捜せし無かりし故辭し去り
四五十町程歩く後より店員來り先程
の本は元の所に置きたるかと怪疑の
眼をして聞うた尤も小生は其の所

貴社に於て募集
さるゝ満鮮露鐵道
大競争の投票は一
人にて何枚も投票
して可しきや(一)

「源川殿の家来……」
「ヤツ」
「待ちやれ……」
「さては……」と仁太夫、懷中に秘めた短刀の柄に手をかけながら、ツカ／＼と引返して。
「御身は何者……」
「ハ……」と笑つて修驗者。
「告知仁太夫殿、姫路へ行くるゝまでも無い兎角は、和平の事、和平の事。」
「エ、我等の姓名知らるゝからは御身も名乗らつしやい」と仁太夫。
「名乗もするが、勢州より態々姫路へ行かしたるまでも無い、今我等が奥水姿で出かけるのを認め、」
「ナニ、像で聞及ぶ大谷殿とかの。此方は會釋して。」
「お互ひに斯く姿を捨てずも主家の御坐るわ！」
「其主家は、今和平であらぬか？」
「平馬は斐爾と笑つた。
「如何にも和平、表面は和平であるが、實は頗る和平では無いのである、詭策を用ひる柴田も源川もより初めから和平では無いが、其策に乗つたと思はれぬが、斯く策に出して、敵情を探らせて居るで、大谷平馬は江州長島から勢州長島廻つて、何彼も探る間に仁太夫が奥水姿で出かけるのを認め、」

向ふの島にこだましてけり
朝まだきかの支那人ら石切るかつ
くづく思ひ床に聞き入る 島にて
さまたまの露西亞紙幣を持って来た
る男の顔の幅廣きかな
荒漕より来し男大聲に露西亞紙
幣を換へたりと言ふ
ろしや紙幣の手觸りもうれし其の
匂ひ漂泊の旅をそとりけるかも 紅 果
紅き果の點々ど光り野いばらの中
より禽の啼く聲きこゆ
小禽はもまだ啼きまよふ秋の暮あ
かる中に光る赤き果
壺に飼ふこほろぎ啼きてわが室の
どを勤む(好樂生)

りん病

困る者
多年の
慢性及
急性の
自他で人知れず秘密に治るべきの妙藥あり只一劑を試し切手三枚送れば名馳りと同一療法の詳細を報ずる名古は市南かじや門 武蔵倉田徳三郎

非可成致す不願して用ひ色色野々な難病

日録者の手記 長田 幹彦 一、六〇
 和歌作法 集巻 木芳貴 一、三〇
 婦人電話行 集巻 谷本 一、三〇
 柳浪傑作 集巻 村松 一、二〇
 京都旅からの手紙 桑田春風 一、八五
 印度宗教管見 紀谷節雄 一、二〇
 臆 衛生 森岡十次郎 一、四〇
 歐州戰と我經濟 田本巳之助 一、四〇
 露西亞の戦線より 大庭弘毅 一、五〇
 最近支那の滿洲 坂本 正 一、二〇
 色世情線 岡田篤博 西田 三、七五
 奥様とお女中 福澤 恒子 一、六〇
 奥様の智慧袋 水鏡 一、六〇
 イブセン傑作集 上 桐人 一、八〇
 公文用字例 川原 春樹 特、八〇
 青年訓話 自著 訓平 子爵 一、八〇
 修めり 聖致前田 一、〇〇

大阪屋號書店
 本店在町田二八八番電話東京二五七二番

るにせむ

永年苦しむル
セキ肥大淋病
巴腰クワシ症
を萎縮減少せしめ
して後尿に凝結
す新良藥鴨納生堂

ルイギ

返信符照會者に詳報す
田九二三番町二八九○東京巢鴨納生堂

最上善


生

油醬


特許機械製

保力

保力



絶對品質本位
 鮮滿釀造界唯一之名譽
 大正博覽會於此
 金牌受領
 仁川港 釀造元
 日本醬油株式會社


 株式會社
 京城本町壹丁目
 百三十銀行
 支店
 電話四五八番 一四番
 振替貯金京城一二三番
 御取扱申候
 銀行一般の業務精々御便利に
 爲換取組先は内地各方面並朝鮮樞要の地に有之候

社 會 式 株 草 煙 鮮 朝
 電 話 六 八 〇
 兩 切 煙 草
 バ ラ タ イ ス
 十 四 本 入 金 貳 錢
 四 七 煙 草
 イ ト コ ス モ ス
 二 十 本 入 金 貳 錢
 通 行 無 誤
 京 城 本 町 二 丁 目 (電 話 七 四 二 番)

<p>毛深人</p> <p>其能毛術有自之遠地 白他有力之毛生無多 色金剛にきく毛七二五 東京駿河台丸根一十七番</p>	<p>所請見者印注 之毛藥最良館 之毛藥最良館 之毛藥最良館</p>	<p>醫化鑒諸症極式</p>		<p>仁川本町</p> <p>北島藥店</p> <p>電話三三四、四三三六、六七二番</p> <p>北島藥店支店</p> <p>電話七六一番</p>	<p>藥種賣藥卸問</p>	<p>院長</p> <p>岡田醫學士</p> <p>村上德一</p> <p>京城醫院</p>
---	--	-----------------------	---	---	----------------------	--

[illegible]